

# 山形県における地域体験型科目が 社会人力の育成に及ぼす影響

滝澤 匡<sup>1)</sup>

1) 山形大学学術研究院（地域教育文化学部）

本研究は、山形県の地域資源を活用した地域体験型科目「感じる山形～教科書の向こう側へ～」の受講が社会人力の育成に及ぼす影響を明らかにする目的で行った。当該科目の2013～2015年度の受講者を対象に社会人力（コミュニケーション力・課題解決力）の状態を測定する調査を受講前後で実施し、科目による変化を解析した。その結果、科目全体では対象の能力要素の全ての回答レベルが上昇しており、コミュニケーション力と課題解決力を向上させる教育効果を持つことが示された。これらの影響は調査を行った3年間で大きな変化は見られなかった。一方、5つの体験プログラム間でコミュニケーション力への影響に違いが見られ、プログラムにより異なる教育効果を持つことが示された。

キーワード：アクティブ・ラーニング、地域連携、社会人力、社会人基礎力、汎用的能力

## 1. はじめに

高等教育機関は地域の知的創造活動の拠点であり、地域の諸課題の解決にむけて人材の育成等を通じた貢献が求められている（中央教育審議会生涯学習分科会, 2013）。特に地方は若者流出による人口減少の危機を迎えており、地域に定着して活躍する人材の輩出が急務となっている。そのため、地方大学は学生の地域志向性を涵養する科目を展開し、地域人材の輩出にむけた教育・研究を実施している（牧野, 2017; 光本, 2018; 神戸大学地域連携推進室, 2019; 田原, 2019; 日下・小原, 2023）。

このような地域人材の輩出を目的とした教育・研究は大学教育において新たに求められる学習成果とも関連している。中央教育審議会は大学の学士課程で育成すべき21世紀型市民の能力としてコミュニケーション・スキルや問題解決力を含めた汎用的技能、チームワークやリーダーシップ等の態度・志向性などの4つの能力を挙げている（中央教育審議会, 2008）。地域に関連した教育や研究は、多くの場合、現場での体験的な学習（アクティブ・ラーニング）を伴う（早川, 2017）。これらの体験的な学習方法が学生の汎用的能力（ジェネリックスキル）の向上につながるということが報告されている（木村・中原, 2012; 中里・吉村・津曲, 2015; 安田・野口・直井, 2016）。

山形県の高等教育機関は文部科学省平成24年度大学間連携協働教育推進事業の採択を受け、「美しい山形を活用した『社会人力育成山形講座』の展開」を実施した。この事業は県内の地域資源を教育に活用しながら、学生の汎用的能力の向上を図る人材育成事業である。事業では汎用的能力のなかで社会人に必要とされる3つの能力、コミュニケーション力・課題解決力・リーダーシップを“社会人力”として定義し、育成を試みた。教育プログラムとして平成25年度より県内の5つの大学で27の地域系科目が開講された。山形大学で実施した科目のひとつが地域体験型科目「感じる山形～教科書の向こう側へ～」（滝澤, 2023）である。当該科目は地域志向性の醸成と社会人力の向上を目的として、県内6市町の地域資源や地域活動を体験的に学習する8プログラムから構成されている。滝澤（2023）は当該科目の

受講者の学びについてまとめ、目的とした教育効果が得られたことを報告した。しかしながら、これら受講者の学びはふりかえりレポートの自由記述や受講の様子をもとにしており、育成された具体的な能力とその程度については不明である。

本研究は山形県の地域資源を活用した地域体験型科目「感じる山形～教科書の向こう側へ～」の受講が社会人力の育成に及ぼす教育効果を明らかにする目的で行った。当該科目の2013～2015年度の受講者を対象に社会人力の状態を測定する調査を受講前後で実施し、科目による社会人力の変化を解析した。さらに、実施年度別およびプログラム別でも解析を行い、教育効果の年次変化とプログラムによる違いを明らかにした。

## 2. 方法

### 対象科目

調査は山形大学基盤教育課程の教養科目で開講した地域体験型科目「感じる山形～教科書の向こう側へ～」(滝澤, 2023)<sup>1</sup>において実施した。科目は2013～2019年度に8体験プログラムを行い、受講者はのべ240名であった。プログラム①～④を前期に、プログラム⑤～⑧を後期に実施し、受講者は各期のいずれかのプログラムを履修した。各プログラムの学習内容や受講の状況等の詳細は(滝澤, 2023)を参照いただきたい。調査は2013～2015年度の受講者130名を対象に行い、回答が得られたのべ110名の結果を分析した【表1】。

表1 体験型科目「感じる山形」の受講者数と回答者数

	期間全体		2013年度		2014年度		2015年度	
	受講者数	回答者数	受講者数	回答者数	受講者数	回答者数	受講者数	回答者数
科目全体	130	110*	50	42	43	36	37	32
体験プログラム								
前期								
①山形の森づくり体験	18	17	6	5	7	7	5	5
②民話語り部体験	15	10	5	2	5	2	5	4
③赤湯温泉まちづくり体験	25	20	10	9	8	6	7	5
④庄内文化体験	5	5	5	5	-	-	-	-
後期								
⑤地域のにぎわいづくり体験	21	20	7	7	7	7	7	6
⑥雪と共に生きる体験	20	15	6	4	7	4	7	7
⑦台所と農業をつなぐ地域循環型農業体験	24	22	9	9	9	8	6	5
⑧月山の恵みを感じる秋まつり体験	2	1	2	1	-	-	-	-

\*太字箇所でのデータを用いて比較を実施

### 調査内容

受講者の社会人力の状態を捉えるため、11の質問に回答する質問紙調査を実施した【表2】。社会人力としてコミュニケーション力と課題解決力に着目し、それぞれ5つの能力要素(コミュニケーション力での働きかけ力は2つに区分)を抽出し、対応する行動指標を設定した。それら行動指標の実現程度を診断する質問を設け、5レベル(5:よくできた, 4:できた, 3:おおむねできた, 2:できなかった, 1:全くできなかった)で回答を求めた。なお、人材育成事業全体ではリーダーシップを加えた3つの社会人力の向上をねらいとし、本調査でも当初は3能力について質問を行った。しかしながら、3年間の調査中にリーダーシップに関する質問文を変更したため、データを統合・比較することができず、解析から除外した。

受講による社会人力の変化を測定するため、質問紙調査を科目の開始時と終了時に実施した。開始時の調査は受講者が決定した後にいった事前打ち合わせの際に、終了時の調査は現地学習後に行われた成果発表会の閉会時に実施した。

表2 評価した能力と行動指標および対応した質問内容

評価能力	行動指標	質問	質問内容
コミュニケーション力			
規律性	挨拶が行われている	1	相手の挨拶に応じて、また自発的に、挨拶が行われていますか
傾聴力	相手の話を聞く（理解する）ことができる	2	相手の話を聞いて、その考え方や意図を理解することができますか
発信力	相手に自分の意見を伝えることができる	3	相手に自分の意見を、要点を整理して伝えることができますか
柔軟性	相手とその場に合った対話ができる	4	話し合うべき内容や方向性がかみあった対話ができますか
働きかけ力1	目的にそって相手に働きかけができる	5	自分の意見との相違点・共通点を理解して、相手に働きかけができていますか
働きかけ力2	その場を修復するように相手と対応することができる	6	感情的な対立や誤解を解消する対応ができていますか
課題解決力			
現状把握力	現状を把握することができる	7	必要な調査を行って現状を把握することができますか
現状分析力	現状を分析することができる	8	客観的に現状を分析することができますか
課題発見力	現状から課題を設定（発見）することができる	9	現状から課題を設定（発見）することができますか
課題解決力	設定された課題を解決する提案ができる	10	設定された課題を解決する提案ができます
提案力	設定された課題を解決する提案を表現することができる	11	自分の提案をわかりやすくはっきりと表現することができますか

### 解析方法

本科目の社会人力への影響を測定するため、受講者の開始時と終了時の回答を比較した。個人の変化を捉えるため、比較は回答者毎に開始時と終了時を対応させて行った。最初に、3年間の全プログラムの回答データを併せて解析を行った【表1】。その後、期間を通じた影響の変化を調査するため、年度毎にデータを分けて解析を行った。また、プログラムによる影響の違いを明らかにするため、プログラム毎での比較を行った。ただし、2013年度のみ実施した④庄内文化体験と⑧月山の恵みを感じる秋まつり体験、および3年間の回答者数が少数（10名）であった②民話語り部体験は解析から除外した。

解析はソフトウェア R (Version 4.3.1) の対応のあるノンパラメトリック検定である Wilcoxon 符号順位検定 {Library (exactRankTests)} で行った。なお、受講前後の回答のいずれかに欠損があったデータ（質問4, 5, 9で各1回答）は解析から除外した。

### 3. 結果

全期間（2013～2015年度）の受講者を対象に行った比較では全ての質問で開始時よりも終了時の回答レベルが有意に上昇していた【表3】。

年度別にデータを比較したところ、2013年度と2014年度では全ての質問において終了時の回答レベルが有意に上昇していた【表4】。しかし、2015年度ではコミュニケーションに関する質問1（規律性）と質問4（柔軟性）において回答レベルは上昇していたが、有意な差はなかった。

表3 科目の開始時と終了時の社会人の状態（全期間）

質問	全期間			
	開始時	終了時	V値	
コミュニケーション力	1	4.0	4.4	1530.0 ***
	2	3.7	4.2	1614.0 ***
	3	3.2	3.8	2371.0 ***
	4	3.5	3.9	1561.0 ***
	5	3.4	3.9	1540.5 ***
	6	3.3	4.1	2494.0 ***
課題解決力	7	3.4	3.9	2086.0 ***
	8	3.5	4.1	1925.0 ***
	9	3.2	4.1	3119.5 ***
	10	3.1	4.0	2571.0 ***
	11	3.0	3.8	2970.0 ***

有意水準：\*\*\*0.1%

表4 科目の開始時と終了時の社会人の状態（各年度）

質問	2013年度			2014年度			2015年度			
	開始時	終了時	V値	開始時	終了時	V値	開始時	終了時	V値	
コミュニケーション力	1	4.1	4.4	225 *	4.0	4.5	170.5 *	4.0	4.3	133 NS
	2	3.8	4.2	178.5 **	3.7	4.4	202 ***	3.5	4.1	173 ***
	3	3.4	3.9	313.5 ***	3.0	3.7	332 ***	3.1	3.6	180 **
	4	3.7	4.0	244.5 *	3.5	4.1	213 ***	3.4	3.6	96 NS
	5	3.6	3.9	112 *	3.2	3.9	280 ***	3.3	3.7	156 **
	6	3.4	4.1	284 ***	3.2	4.1	322 ***	3.2	4.0	252 **
課題解決力	7	3.5	4.0	325.5 **	3.4	3.8	186.5 **	3.3	3.8	213.5 **
	8	3.4	4.1	340 ***	3.5	4.0	180 **	3.4	4.1	163.5 ***
	9	3.3	4.1	468 ***	3.2	4.1	276 ***	3.2	4.1	333 ***
	10	3.2	4.0	423.5 ***	3.1	4.1	315.5 ***	3.0	3.7	172 ***
	11	3.2	3.9	427.5 ***	2.9	3.7	364 ***	2.9	3.8	237 ***

有意水準：\*5%, \*\*1%, \*\*\*0.1%, NS &gt;5%

プログラム別に比較したところ、解析を行った5プログラムの全ての質問で終了時の回答レベルが上昇していた【表5】。しかし、有意な変化が見られた質問はプログラム間で異なった。コミュニケーション力に関する質問1（規律性）の回答レベルは②赤湯温泉まちづくり体験でのみ有意な上昇となった。また、質問4（柔軟性）の回答レベルは⑥雪と共に生きる体験でのみ有意な上昇となった。一方、課題解決力に関する質問では多くのプログラムで回答レベルが有意に上昇した。

表5 科目の開始時と終了時の社会人力の状態（プログラム別）

	質問	①山形の森づくり体験			②赤湯温泉まちづくり体験			⑤地域のにぎわいづくり体験		
		開始時	終了時	V値	開始時	終了時	V値	開始時	終了時	V値
コミュニケーション力	1	3.9	4.4	51.0 NS	3.8	4.3	41.5 *	4.3	4.6	65.0 NS
	2	3.6	4.2	60.5 *	3.6	3.9	32.0 NS	4.1	4.5	45.0 NS
	3	3.0	3.5	50.0 *	3.1	3.7	66.0 ***	3.6	4.2	79.0 *
	4	3.4	3.7	18.0 NS	3.5	3.8	37.5 NS	3.8	4.1	84.5 NS
	5	3.1	3.6	47.0 NS	3.4	3.7	36.0 NS	3.6	4.0	45.0 NS
	6	3.2	4.1	81.0 *	3.4	3.9	44.0 NS	3.5	4.2	81.0 *
課題解決力	7	3.4	4.0	85.5 *	3.1	3.2	26.5 NS	3.6	4.0	56.0 *
	8	3.4	4.2	62.0 **	3.4	3.8	38.0 NS	3.7	4.3	67.0 *
	9	3.4	4.3	91.0 ***	3.1	3.8	85.5 **	3.4	4.4	123.5 **
	10	2.9	3.8	52.0 *	3.0	3.9	91.0 ***	3.5	4.2	73.5 **
	11	2.8	3.7	81.0 *	3.1	3.8	66.0 ***	3.4	4.1	88.5 *

有意水準：\*5%, \*\*1%, \*\*\*0.1%, NS >5%

	質問	⑥雪と共に生きる体験			⑦台所と農業をつなぐ地域循環型農業体験		
		開始時	終了時	V値	開始時	終了時	V値
コミュニケーション力	1	4.1	4.4	27.0 NS	4.0	4.4	52.5 NS
	2	3.5	4.2	45.0 **	3.7	4.3	51.0 *
	3	2.7	3.6	78.0 ***	3.3	3.6	88.0 NS
	4	3.3	4.0	60.5 *	3.7	4.0	52.0 NS
	5	3.3	4.0	45.0 **	3.5	4.0	74.5 *
	6	3.1	4.0	68.0 *	3.5	4.3	94.0 **
課題解決力	7	3.2	3.9	60.5 *	3.4	4.1	116.0 **
	8	3.3	3.9	33.0 *	3.5	4.2	135.0 **
	9	3.1	4.1	80.5 **	3.1	4.0	120.0 ***
	10	3.2	3.9	50.5 *	3.1	3.9	138.0 **
	11	2.8	3.7	78.0 ***	3.0	3.7	123.0 **

#### 4. 考察

本研究では山形県の地域資源を活用した地域体験型科目の受講が学生の社会人力に及ぼす影響を調査した。その結果、科目全体では対象の能力要素の全ての回答レベルが上昇しており、コミュニケーション力と課題解決力を向上させる教育効果を持つことが示された【表3】。

これらの教育効果をもたらした要因として、本科目の学習の特徴である多様な学生とのグループワーク、現地講師からの直接指導などが考えられる。本科目は6大学・短期大学部から複数の学年の学生が受講しており、様々なメンバーとのコミュニケーションの場となった。このような学習は異なる価値観・考え方にふれる機会となり、傾聴力や柔軟性、発信力を向上させる機会となったと考えられる。このような協同学習によるコミュニケーション・スキル、対人スキルの向上は多くの研究で報告されている{(安永, 2015) によるまとめ}。また、現地講師による指導も重要な影響を持っていたと考えられる。単に立

場の異なる者とのコミュニケーションだけでなく、指導的立場の年長者への尊敬は規律性や傾聴力の向上につながったと考えられる。

様々な学生とのグループワークは課題解決力の向上にも寄与したと考えられる。協同に基づく活動性の高い授業により 1 つの授業科目で認知的側面と態度的側面が同時に獲得できるとされている(安永, 2015)。認知的側面は学習内容の理解やスキルの向上であり、体験型科目においては学習対象である地域および地域資源への理解である。これら理解の高まりは現状把握力や課題発見力の向上につながったと推測される。

また、地域資源を熟知する現地講師による直接指導が課題解決力の向上につながったと考えられる。技術や知識の学習理論である認知的徒弟制では学習ステップの初期に教育者が手本を示すことが重要とされている(西城, 2012)。本科目の指導では、最初に現地講師がこれまで実践してきた方法を学生に示すことが多く、講師の持つ現状把握力や現状分析力などの課題解決力を目の当たりにすることとなる。これにより学生たちは学習の方向性を定めることができ、効果的な学びにつながったと考えられる。

さらに、現地での体験的な学習による学生の興味・関心の高まりが観察力や洞察力を向上させたことも考えられる。地域の自然、伝統的活動、人々の活気などはテキストでは決して理解できない地域の魅力である。また、活動の達成感、収穫の喜び、修行体験による陶酔感なども現地でなければ感じる事ができない。これらは学生の興味・関心を刺激し、より多くの情報を得ようとして観察力や洞察力が高まったと思われる。その結果、課題解決力が向上したと推測される。

### 教育効果の年次変化

調査を行った 3 年間で社会人力への影響に大きな変化は見られなかった【表 4】。プログラムを継続して実施する中で指導側に慣れや緊張感の緩みが生じて教育効果が低下することが懸念されるが、本科目においてないように思われた。このような継続した教育効果は他の研究でも報告されている(澤田, 2021; 安部ら, 2022)。なお、2015 年度ではコミュニケーション力の規律性や柔軟性に有意な向上は見られなかった。これは回答者数が少なかったことによる検出力の低下に起因したものと考えられる。

### プログラムによる教育効果の違い

プログラム間で社会人力への影響に違いが見られた【表 5】。課題解決力への影響はどのプログラムでも見られたが、コミュニケーション力への影響は異なった。個々のプログラムの学習内容と教育効果の明確な関連は見いだせず、教育効果が異なる原因は不明である。今後、個々のプログラムの内容や活用した地域資源が社会人力の育成に及ぼす影響を明らかにし、違いが生じた原因を特定していく必要がある。

一方、プログラム間で育成する能力要素が異なるにも関わらず、科目全体では全ての能力要素が向上していた。各プログラムが異なる教育効果を持ち、それらが補完的に機能することで科目全体としてバランスの良い教育効果を示したと考えられる。これより、複数の体験プログラムを開講し、多様な学びの機会を提供することが重要であると思われる。

### 今後の課題

本研究では質問紙調査により学生の社会人力の変化を定量的に捉えており、ふりかえりレポートを通じた感想から学生の学びを抽出した以前の研究(滝澤, 2023)よりも正確に教育効果を把握できた。しかしながら、質問への回答は学生自身の主観に依っており、客観的な評価が求められる教育効果の測定としては未だ不十分な点がある。今後はルーブリック等の客観性の高い評価手法を開発し、より正確に教育効果を把握する必要があると考えられる。

## 5. 謝辞

社会人力評価の企画・作成にご尽力いただいた横井博氏(元山形大学教授)に厚く御礼申し上げます。

関連分野の研究の動向など有益な情報を提供してくれた佐藤舞翔氏（山形大学地域教育文化学部4年）に感謝の意を表す。

## 6. 引用文献

- 安部 恵祐・岩本 光生・井上 高教・石川 雄一・和田 智雄・阿部 通正（2022）「産学官金等共創教育（PBL）の推進と課題」『大分大学教育マネジメント機構年報』第1巻，43-49.
- 木村 充・中原 淳（2012）「サービス・ラーニングが学習成果に及ぼす効果に関する実証的研究：広島経済大学・興動館プロジェクトを事例として」『日本教育工学会論文誌』第36巻，第2号，69-80.
- 日下 まりあ・小原 愛子（2023）「大学の地域連携における PBL 教育の現状と課題」『教育経済学研究』第3巻，68-84.
- 神戸大学地域連携推進室（2019）『地域創生に定める実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム事業 2018COC+REPORT』.
- 西城 卓也（2012）「正統的周辺参加論と認知的徒弟制」『医学教育』第43巻，第4号，292-293.
- 澤田 英行（2021）「コロナ禍における地域志向型 PBL の授業デザインと学修成果の省察と展望」『工学教育』第69巻，第6号，6\_106-106\_115.
- 滝澤 匡（2023）「山形県における地域体験型科目の開発と実践：村山・置賜・庄内地方の地域資源を活用して」『山形大学教職・教育実践研究』第18巻，95-106.
- 田原 洋樹（2019）「域学連携型授業を通して観られる学習成果の検証について」『明星大学経営学研究紀要』第14巻，1-18.
- 中央教育審議会（2008）「学士課程教育の構築にむけて（答申）」.
- 中央教育審議会生涯学習分科会（2013）「第6期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」.
- 中里 陽子・吉村 裕子・津曲 隆（2015）「サービスラーニングの高等教育における位置づけとその教育効果を促進する条件について」『アドミニストレーション』第22巻，第1号，164-181.
- 早川 公（2017）「「地域志向教育」とは何か—地域学，フィールドワーク，拡張現実」『教育・学生支援センター紀要』第1巻，17-25.
- 牧野 暁世（2017）「鹿児島大学における地域志向教育の現状」『鹿児島大学教育センター年報』第13巻，10-21.
- 光本 滋（2018）「高等継続教育と大学改革：国立大学における生涯学習部門の動向を中心に」『北海道大学大学院教育学研究院紀要』第130巻，151-162.
- 安田 孝・野口 理映子・直井 玲子（2016）「アクティブラーニングの反復がジェネリックスキルの変化に及ぼす影響 - Project-based Learning 型授業を用いた検討」『松山東雲女子大学人文科学部紀要』第24巻，43-56.
- 安永 悟（2015）「協同による活動性の高い授業づくり」. 松下 佳代編. 『ディープ・アクティブラーニング』 東京都：勁草書房，113-139.

## 注

<sup>1</sup> 山形県の村山・置賜・庄内の3地方において地域固有の文化・歴史・産業・地域活動を活用した地域体験型科目の開発と実践について報告された。2013年度～2019年度にかけて6市町において8体験プログラムを実施しのべ240名が受講した。

### 【各体験プログラムの概要】

- ① 山形の森づくり体験：地元企業と南陽市が行う森林保全活動に参加し，社員の方々とグループで森林整備作業を行った。2013～2019年度に開講し，41名が受講。
- ② 民話語り部体験：南陽民話の語り部の方々の指導の下，学生が民話を方言で語る学習を行った。2013～2017年度に開講し，29名が受講。

- 
- ③ 赤湯温泉まちづくり体験：温泉街の活性化に取り組む地元団体の方々の指導の下、温泉街の魅力を学び、街を賑わす活動に取り組んだ。2013～2016年度に開講し、32名が受講。
  - ④ 庄内文化体験：龍澤山善寶寺での禅修行体験と出羽三山神社での山伏修行体験を行い、庄内地方の歴史と文化を学んだ。2013年度に開講し、5名が受講。
  - ⑤ 地域のにぎわいづくり体験：山形市の地域活性化をはかる地元団体が主催する行事の運営に参加し、地域の文化や魅力を活用したまちづくりを体験した。2013～2019年度に開講し、49名が受講。
  - ⑥ 雪と共に生きる体験：豪雪地である尾花沢市において住民の方々の指導の下、高齢者宅の除雪や地域施設の冬支度を行った。2013～2019年度に開講し、47名が受講。
  - ⑦ 台所と農業をつなぐ地域循環型農業体験：生ゴミを堆肥として地域農業に利用する長井市の取組において有機農業や野菜販売などを体験的に学習した。2013～2017年度に開講し、35名が受講。
  - ⑧ 月山の恵みを感じる秋まつり体験：西川町大井沢で地域イベントの運営に参加し、月山の自然と文化を活用した地域活性化活動を学習した。2013年度に開講し、2名が受講。